

AIBS 学会「投稿論文」執筆要項

1. 投稿論文は、アジア・国際経営戦略に関する基礎的な理論や応用的な事例等を研究する内容とする。
2. 原稿は横書きとし、論文 1 編の長さは本文 20,000 字程度とする。本文の字数には、図・表などのスペースを換算して含める。ただし、編集委員会の了解に基づき、20,000 字を超える論文の掲載を認めることができる。日本語以外の論文に対しては、相当する長さとする。
3. 本文原稿は、ワープロソフトにより作成し、ファイルを提出する。
4. 表紙及び別紙：表題、著者名、必要に応じて所属機関名は、本文原稿とは別に記して表紙とする。英文アブストラクト（150～200 語）とキーワード（5 語：和文と英文を併記）は、表紙につづく別紙に記す。この表紙及び別紙には、邦文及び英文を併記する。表紙以外には、執筆者名を記さない。
5. 英文アブストラクト：英文アブストラクトは、英語を母語とする人の校閲を経ていることが望ましい。
6. 本文中においては、執筆者本人およびその研究成果に関する論及は第三者として扱うものとする。筆者、拙著、拙稿等の表現は用いない。
7. 論文の叙述は明確にし、原則として常用漢字、現代かなづかい、算用数字を用いる。
8. 図・表は、必要最小限度にとどめ、本文との重複は避ける。また、図・表には図・表番号とタイトルを図・表の上側に明示する。
9. 図表の出典：図・表に関しては、本人が作成したもの以外は、次のような形式で出典を明記する。
出典：亜細亜太郎（1998, p.37）
10. 著者名の英文表記：著者名の英文表記は原則として以下のとおりとする。
大橋太郎 OHASHI, Taro
11. 注は脚注とし、右肩に通し番号を付ける。
12. 引用は、以下の例にならう。同一著者の同年の文献を引用する場合には、a,b,c,d,…を付ける。なお引用に際しては、年次の後に頁数も記入する。
（例 1）…である（Simon, 1989, p.229 ; Adler, 2005, pp.101-102）。
（例 2）鈴木（1985, p.36）によれば、…
（例 3）Simon（1989a, p.18 ; 1989b, pp.138-139 ; 1989c, p.55）は、…
13. 直接引用及び他文献の要約に関しては、当該部分の最初と終わりが明瞭に判断できるようにする。
14. 引用・参考文献は、本文の最後の一括して一覧を掲載し、原則として、和名・洋名を問わず著者名（姓名）のアルファベット順に並べる。必要に応じて、言語別に分けることも可とする。一覧掲載は以下の例にならう。
（例：邦文文献の場合）
伊丹敬之（1984）『新・経営戦略の論理』日本経済新聞社。
加護野忠男・上野恭裕・吉村典久（2006）「本社の付加価値」『組織科学』第 40 巻第 2 号,4-14 頁。
高橋伸夫（2006）「日本型年功制の再評価」伊丹敬之・藤本隆宏・岡崎哲二・伊藤秀史・沼上幹（編）『日本の企業システム第 4 巻組織能力・知識・人材』有斐閣,第 13 章, 368-392 頁。
（例：欧文献の場合）
Pavitt, K., (1993), "What do Firms Learn from Basic Research?," in Foray, D. and C. Freeman, (Eds.), *Technology and The Wealth of Nations*, Pinter.
Tushman, M. and P. Anderson (1986),"Technological Discontinuities and Organizational Environment," *Administrative Science Quarterly*, Vol.31, No.3, pp.439-465.
Womack, J. P., D. T. Jones and D. Roos (1990), *The Machine That Changed the World: Based on the Massachusetts Institute of Technology 5-million Dollar 5-year Study on the Future of the Automobile*, Rawson Associates.
15. インターネットの引用については、URL と参照日を明示する。
16. 句読点：邦文の場合、句読点は、「、」と「。」を用いることを原則とするが、「、」と「。」であっても、統一的に用いられていれば可とする。

AIBS 学会投稿論文審査規定

【審査基準】

- (1) 未公表のオリジナルなものであること、重複応募等がないこと。
- (2) アジア・国際経営戦略に関する基礎的な理論や応用事例等を研究する内容となっていること。
- (3) 投稿論文の内容が、関連する研究領域において、使用した概念や方法が独創的であること、学会誌にふさわしい新しい知見を提示する、科学的な学术论文の水準に達していること。
- (4) 序論部分において、当該研究の位置づけが適切になされていること、研究目的、必要性、意義等が明確に述べられていること、問題意識が明確になっていること。
- (5) 投稿論文に関わる主要な先行研究に触れていること。
- (6) 論文構成のバランスが図られていること。
- (7) 結論部分において、研究目的に対応する研究成果および本論部分の要約が明記されていること。
- (8) 内容と記述に曖昧さがなく用語の使用が適切であること、数式、図表等の表現が適切であること、関連文献の引用が適切であること。
- (9) 題名がその研究目的および研究成果を表現するのに妥当であること。
- (10) 執筆要項に定める事項に沿って論述がなされていること。

【審査報告書】

投稿論文の学会誌への掲載の可否は、審査委員 2 名によって作成される、以下の内容を含む審査報告書に基づいて決定される。

- (1) 査読結果についての全体評価（以下から一つ選択）
 - A 評価： 原文のまま掲載可
 - B 評価： 軽度の修正が必要で投稿者は審査委員の意見を尊重し納得出来る範囲で修正する。再審査は不要である。
 - C 評価： 相当の修正が必要で、条件付きで掲載を可とする。修正が行われない限り、掲載否。この場合、修正論文に対して「再審査」が行われる。
 - D 評価： 掲載否。
- (2) 全体評価についての意見
査読結果の論拠について、審査、判定事項等にもとづいて意見を明示する。
- (3) 修正についての意見
修正すべきあるいは修正が望ましい内容や箇所に関して意見を述べる。

AIBS ジャーナル掲載記事区分

AIBS ジャーナルに掲載する記事を、以下の区分とする。

- ① 「投稿論文」学会員等が投稿した論文で、審査委員によって審査されるもの。審査方法等については、別途定める
 - ② 「特別寄稿」編集委員会が依頼した論文で、審査委員の審査を受けないもの。
 - ③ その他、講演録など編集委員会が必要と認めたもの。種別名称はその都度定め、審査委員の審査を受けないが、学術雑誌掲載記事が充足すべき一般的な事項は、編集委員会を確認、修整を求めることができるものとする。
- ※ なお、掲載記事は、原則として「投稿論文」執筆要項にしたがうものとするが、編集上の都合で、これとは異なる体裁とすることを容認する。